

沿革

- 大正10年(1921)4月、沖縄県立水産試験場として発足(県庁内に事務所を置く)。初代場長に佐々木武治氏就任
- 同年8月調査試験船琉球丸(木造30トン、50HP)建造、那覇に回航
- 大正12年(1923)事務所を県立水産学校内に移転
- 大正14年(1925)5月事務所を県立漁業協同組合連合会内に移転
- 大正15年(1926)8月佐々木場長退任、田代清友氏場長に就任。
- 昭和2年(1927)5月那覇市垣花町に新庁舎起工(農林省産業助成金による)、調査試験船図南丸(鋼船100トン、200HP)建造那覇回航11月3日(琉球丸は水産学校へ移管)
- 昭和3年(1928)3月庁舎落成。
- 昭和3年(1928)4月県立水産試験場を改名して県水産試験場となる。田代場長茨木水試へ転任。
- 昭和3年(1928)5月立川早逸氏場長に就任。
- 昭和8年(1933)立原場長退任、大内義男氏場長に就任。
- 昭和17年(1942)調査試験船徴用される。
- 昭和18年(1943)大内場長転任、水産課長木原佳一郎氏場長を兼任
- 昭和19年(1944)10月那覇の大空襲で試験場施設が破壊され機能停止。
- 昭和23年(1948)7月沖縄水産試験場として再出発戦後初代場長に篠原士郎就任(事務所を沖縄民政府水産課内に置く)
- 昭和25年(1950)4月琉球農林省の創設に伴い、同省水産局の解庁として名称を琉球水産研究所と改名
- 昭和25年(1950)10月大島水産試験場わ当研究所の大島支所として統合
- 昭和27年(1952)3月佐敷村馬天に新庁舎(ブロック平屋70坪)落成移転
篠原場長琉球大学へ転任、大島支所長豊田茂氏所長に就任。
- 昭和28年(1953)12月奄美大島の日本復帰で大島支所解消、豊田場長鹿児島県大島郡水産指導所長へ転任。
水産課長森田真弘氏所長兼任
- 昭和29年(1954)10月大嶺盛亮氏水産課経済係長より所長に就任
- 昭和32年(1957)5月那覇市泊北岸に新庁舎(鉄筋コンクリートブロック建2階125坪)落成移転
- 昭和33年(1958)(付属建物の)漁具倉庫(鉄筋コンクリートスラブ葺24坪)竣工
- 昭和35年(1960)(付属建物)漁具染場(鉄筋コンクリートスラブ葺7.5坪)養魚池(コンクリート造25坪)竣工、調査船図南丸(鋼船159トン、400HP)建造
- 昭和36年(1961)(付属建物)製造加工場(鉄筋コンクリートスラブ葺24坪)竣工
- 昭和38年(1963)2月大嶺所長退任、友寄隆氏水産課長より所長に就任。
- 昭和41年(1966)8月資源調査研究室や増設、調査船くろしお(木船21トン100HP)建造